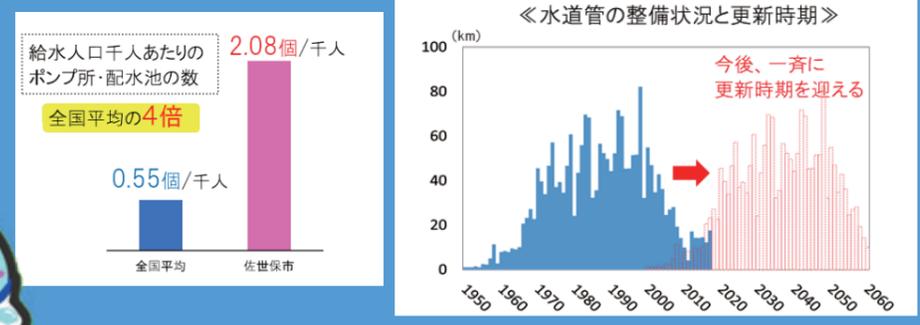


Q 人口減少や施設老朽化は全国どこでも同じじゃないの？

A 佐世保市は斜面地が多くて地形が複雑だから、他の都市より施設の数がとても多いんだ。それが、今後一斉に古くなるから、更新にはたくさんお金がかかるけど、それを支える人口が少なくなっているから、なんとか、コストを減らしていけないといけないんだ。



Q 急いで老朽化対策をするために、他の事業をやめたらどうなの？

A 老朽化対策を短期集中的に実施すると、市民負担が大きくなるから、長期計画的に進めていかなければならないのよ。
それに、戦前に造られたダムがいくつもあって、とても古くなっているんだけど、水源不足を解決しないと古いダムの改修工事もできないの。
だから、全体を見て、バランスよくやっていかないといけないのよ。



『佐世保市水道ビジョン2020』は、水道局ホームページに掲載しています。是非、ご覧ください。

【お知らせ】石木ダム建設事業の進捗状況

長崎県が建設を進めている石木ダム建設事業の現在の進捗状況をお知らせします。
平成25年度から、ダム建設によって水没する道路を迂回させるための工事が進められており、現在、右の写真のとおり、完成が近づいています。
この工事が完了すると、次はダム本体の工事が予定されています。
佐世保市としても、早期に工事が進むよう、今後も、石木ダムの建設促進に努めてまいります。
みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。



《現況写真：長崎県提供》

(次回以降、下水道ビジョンやアセットマネジメントの内容等をお知らせする予定です。)



Contents

- 1.佐世保市水道ビジョン2020とは
- 2.これからの佐世保の水道
- 3.水道ビジョンQ & A

【お知らせ】石木ダム建設事業の進捗状況



1

佐世保市水道ビジョン2020とは

安全・安心な水道の長期的持続を図るマスタープラン

「水道ビジョン」は、水道の長期的将来像を見据えたうえで今後10年間の具体的取り組みを定めたマスタープランです。

今年度、新たに「水道ビジョン2020」に改定しましたので、その概要についてお知らせします。

2

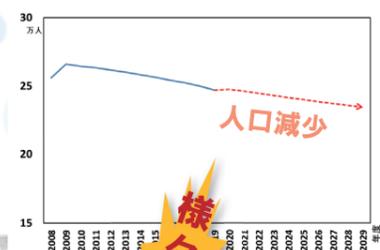
これからの佐世保の水道 (水道ビジョンの概要紹介)

水道を取り巻く社会環境の変化

水道は、昭和30年代から40年代にかけての高度成長期に集中整備されており、これらが今後一斉に更新時期を迎えることとなります。一方で、近年は人口減少が進み、少ない人口で多くの施設を支えていかなければなりません。

また、ウィズコロナの時代では、今まで以上に公衆衛生に果たす水道の役割が大きくなっており、湯水等で水道が途絶えることがないようにしなければいけません。

さらに、コロナ禍による経済低迷、自然災害の激甚化など、過去にない多くの課題に直面しています。



①水の安定供給の確保

●水源不足を解消し、公衆衛生を守ります。

令和7年度を完成予定として、現在までに約8割の協力が得られている石木ダムを早期建設を進め、水の安定供給を図ります。



●市町合併後の地域格差を解消します。

佐世保市では、平成17年から平成22年にかけて1市6町による合併を行いました。水道施設は、合併以前の分離・独立した状態のままとなっているため、渇水時などに、特定の地域だけが給水制限になるなど、地域によって格差が生じています。

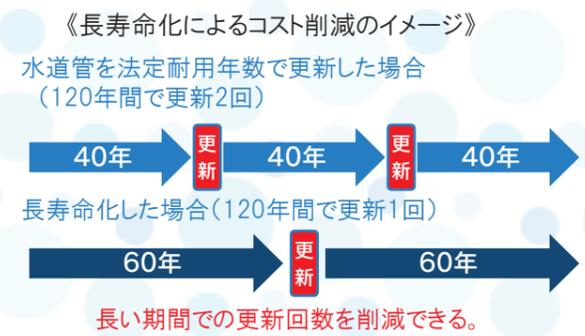
今後、長期計画として、各地区の水道施設を、格差が著しい地区から優先して段階的に佐世保地区と連結して送水する整備を行い、格差解消を図ります。



②将来の更新需要の削減 (マイクロマネジメント)

●施設の長寿命化により更新コストを削減します。

従来の法定耐用年数を目安とした施設更新ではなく、施設の実態を調査・分析し、より長く施設の使用を続けることで、施設更新の回数を減らしてコストを削減します。



●統廃合やダウンサイジングにより更新コストを削減します。

施設配置を再編成し、統廃合を進めることによって施設数の削減を図ります。

また、施設更新にあたっては、人口減少の度合いに応じたダウンサイジング(施設の規模を小さくすること)を行い、コストを削減します。

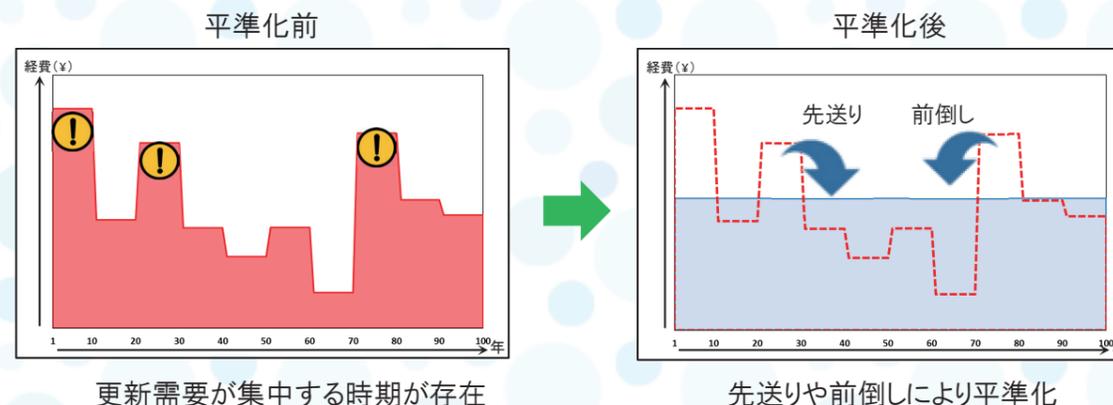


③長期的な経営基盤の強化 (マクロマネジメント)

人口減少や経済低迷で限られた財源の中で、確実に事業を進めるためには、事業費の支出が同時期に集中しないようにしなければなりません。この対策として、戦略的に事業実施時期の先送りや前倒しを行い、費用負担の平準化を図ります。

また、事業の先送りにあたっては、水道管破裂等のリスクに対応できるように、リスクマネジメントの体制を構築します。

《費用負担の平準化のイメージ》



佐世保市では、このマイクロマネジメントとマクロマネジメントを一元化した『アセットマネジメント』の策定を進めています。より効果的な事業経営が期待できるのよ!

